

愛媛県内における津波の被害・浸水域・高さとの関連 ～津波防災に対する地名の有効性の考察～

上村勇輔*(愛媛大学)・亀山真典(愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)

§1. はじめに

著者*は津波と沿岸部に存在する地名との関連について調査している。本誌第35号(2020)においては、静岡県伊豆半島沿岸部において、津波に由来を持つ地名や津波に関連する地名があることを報告した[上村・荒井(2020)]。本研究は、上村・荒井(2020)の継続研究としての性格を持たせつつ、愛媛県においておこなっているものである。本大会では、昨年度、愛媛県南予地域の沿岸部に存在する寺院と小学校に対して、津波に関連する地名の有無や津波に関する伝承の郵送調査を行い、これに関して考察・整理したので報告する。

§2. 愛媛県南予地域における郵送調査

本研究の最終的な目的としては、「愛媛県沿岸にあるすべての寺社・学校・公民館に対して津波関連の地名・史料の有無と、有る場合はその内容や津波の伝承等を調べる」ことが挙げられる。計画の初年度にあたる昨年度は、愛媛県の中でも津波の経験が最も多いと期待される南予地域での調査を先行して実施した。対象としたのは、愛媛県南予地域のうち、沿岸部を持つ大洲市、八幡浜市、西宇和郡伊方町、西予市、宇和島市、南宇和郡愛南町の6市町に存在する寺院・小学校である。対象とした寺院・小学校は国土地理院地形図と住宅地図を用いて抽出した。

郵送調査は、アンケート用紙を送付する方式で2021年12月から2022年2月上旬にかけて、対象として抽出した152か所の寺院・小学校に対して行った。アンケートは「質問1 津波の被害を記した古文書はありますか」及び「質問2 周辺に津波や地震に関する言い伝えがある地名はありますか」の2項目とし、それら質問に対し「はい」「いいえ」の2択を選んでもらい、質問2ではさらに「質問2で「はい」と答えた方にお聞きします。津波や地震に関する言い伝えがある地名について、知っているものを下の枠内に書いてください。(ひらがなでも構いません。)」という質問を用意した。最後の質問の回答方式のみ、記述欄に詳細を答えていただく形式とした。

§3. 郵送調査の結果

§2で述べた郵送調査では、152か所の寺院・小学校に対して発送したが、そのうち9件については「宛所不明」で返送されてきたため、最終的な調査件数は143件となった。このうち、返送用封筒を用いて回

答があった数は89件、電話での回答が1件で、総回答件数は90件、回答率は62.9%であった。

回答があったもののうち、質問1の「津波の被害を記した古文書はありますか」に対して「はい」との回答が2件あり、「いいえ」との回答が88件あった。ただし「はい」との回答のあった施設からも、古文書の例として挙げられたものは、「伊方町史」「八幡浜市誌」に留まり、新史料の発掘には至らなかった。次に、質問2の「周辺に津波や地震に関する言い伝えがある地名はありますか」という問いに対して、「いいえ」の回答が88件あり、「はい」の回答が2件あった。さらに「はい」の回答があった2つの施設からはそれぞれの地名について以下のように記述がなされていた。

「伊方町田部地区に木船神社があります。今は神座もなく、跡地しかありませんが、昔津波の時にその神社跡まで船が流されてきたといい、木船神社の名前がついたと聞いたことがあります。その神社は海拔20メートルくらいだと思います。」
(伊方町田部)

「私が聞いている範囲では『昔、津波が大川を逆登って山手にあるとなりの河内(かわち)部落までやってきた』(時代不明)それくらいです」
(伊方町湊浦)

また、「いいえ」と回答のあったものでも、公民館や区長であれば何か知っているかもしれないといった内容の記述が多くみられた。なお、質問1で「はい」の回答のあった2か所の施設と質問2で「はい」の回答のあった2か所の施設は異なる。

§4. むすび

郵送調査によって、愛媛県南予地域において、津波に由来すると思われる地名および津波に関連する伝承を持つ地名がそれぞれ1件発見できた。これらは現在調べられている範囲の既往研究には記載がないものであり、その信頼性には疑問が残る一方で、過去の津波の様子を知る新たな要素となる可能性も考えられる。今後はこれらの真偽について現地での調査も踏まえ、検討・考察を進める方針である。

本研究は、国立大学法人愛媛大学の「愛媛大学学生による調査・研究プロジェクト(プロジェクトE)ジュニア部門」の一部として実施した。